

自動認識システム大賞「大賞」

テーマ:「バーコードを活用した患者投薬過誤防止システム」

技術分野名: バーコード

申請会社名: 株式会社 サトー

ユーザ団体名: 医療法人敬和会 大分岡病院

システム構築会社名: 株式会社 システムビッツ

システムの概要

入院患者が装着したバーコード付きのリストバンドと投薬(点滴)パックに添付のバーコードラベルにより、システム的に投薬実施時の患者の取り間違いミスを防止する。併せて誰の(ドクター)指示で、誰が(看護婦)、誰に(入院患者)、何を(注射の種類)、行ったかの履歴をシステム的に記録し管理(リスク管理)することにより、問題発生時には責任の切り分けを容易に出来るシステムである。

主なメリット

今まで目視確認のみであったのが、システム的に確認ができ現場看護婦の技量に左右されず過誤防止に繋がる。

電子的であり、書き換えが容易でないため記録データの信憑性が高く問題発生時の切り分けが容易になり、現場看護婦の精神的な負担を解消できる。

従来の手書き記録の煩わしさから解放され本来の看護等の作業に専念できる。

電子的に記録されるため転記ミスが減少。

リスク管理という新しいサービスを行う事で外来患者の信頼を得る事ができる。

外来患者も増え病院経営にとって良い結果をもたらす。

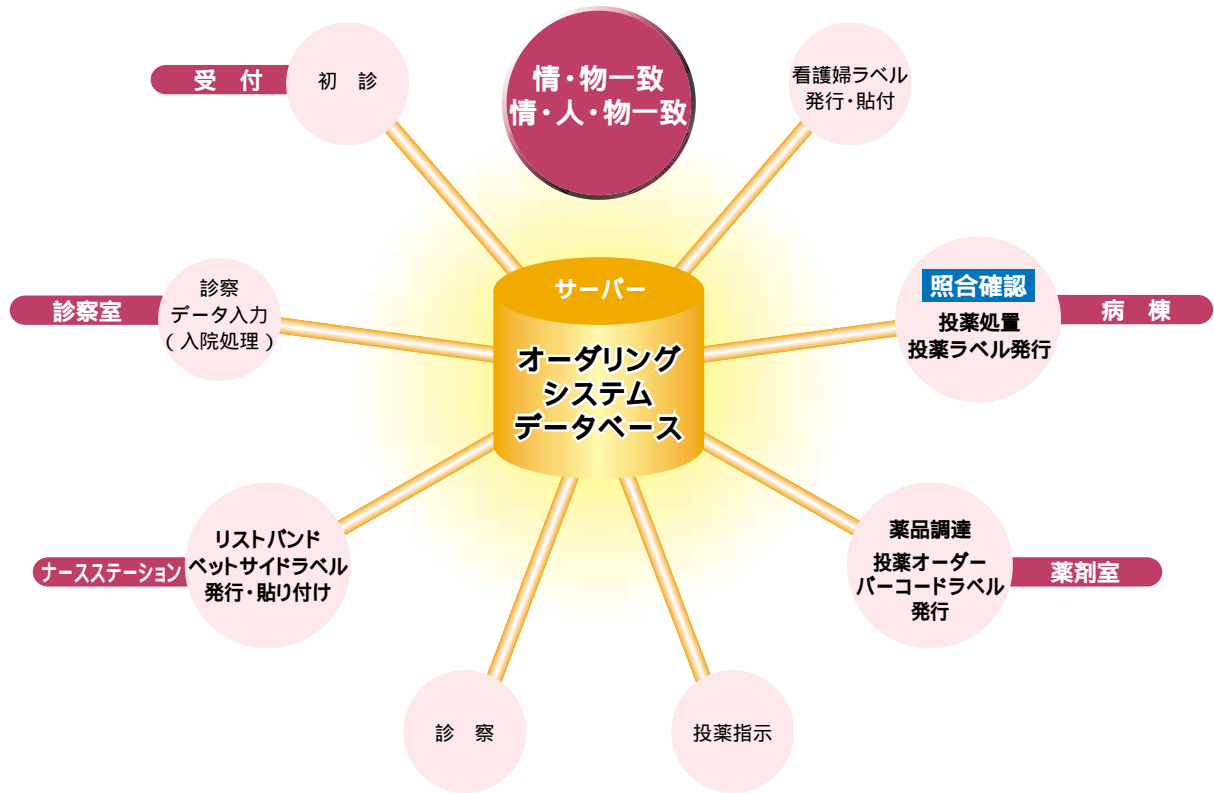
患者さんに“安心”と“信頼”を与え、 医療スタッフの心的な負担を軽減し、 医療現場の安全をサポートします。

病院の相次ぐ医療過誤の増加。その多くが、患者さんや投与する薬剤の取り違えを原因としています。バーコードによる医療過誤防止システムは、バーコードと携帯端末を利用し、患者さんや薬剤投与、その他さまざまな医療情報を管理することによって、看護婦さん・医療スタッフのかたがたが正確な処置を行うことを可能にし、患者さんに安全と安心を与えます。

バーコードによる医療過誤防止システム

オーダリングシステムとの連携で高度な院内ネットワークを構築。

注射、輸血、手術、投薬等の医療行為の際、処置オーダー(情報)に合った正確な処置を遂行するために、ID情報による患者さん・看護婦さん(人)の特定、投薬ラベルの発行・貼付による薬剤や輸液パック(モノ)の特定を行い、それぞれのバーコードをスキャンすることにより、情報・人・モノの一致・照合確認を行い、医療過誤を防止。オーダリングシステムとの連携により、さらに確実かつ効率的な情報管理を実現します。



病棟での活用



点滴・輸血確認

リストバンドと点滴ボトルや輸血パックと投薬オーダーバーコードラベルを照合確認し、投薬や輸液の取り違えを防止します。



薬剤確認

注射オーダーの内容と患者毎の薬剤を調達したアンブル等のバーコードを照合確認し、薬剤の取り違えを防止します。



採血確認

リストバンドと採血管のバーコードを照合確認し、採血管検査の取り違えを防止します。

ID情報

患者

リストバンド

入院患者の個人情報
を記録したバーコード
を印字し、発行したリ
ストバンドにより、患
者確認、血液型等の確
認が迅速かつ確実に行
なえます。

ベッドサイドラベル

リストバンド同様、正
確に患者情報を確認し、
スムーズで確実な処
置を行うことができます。

看護婦

看護婦ラベル

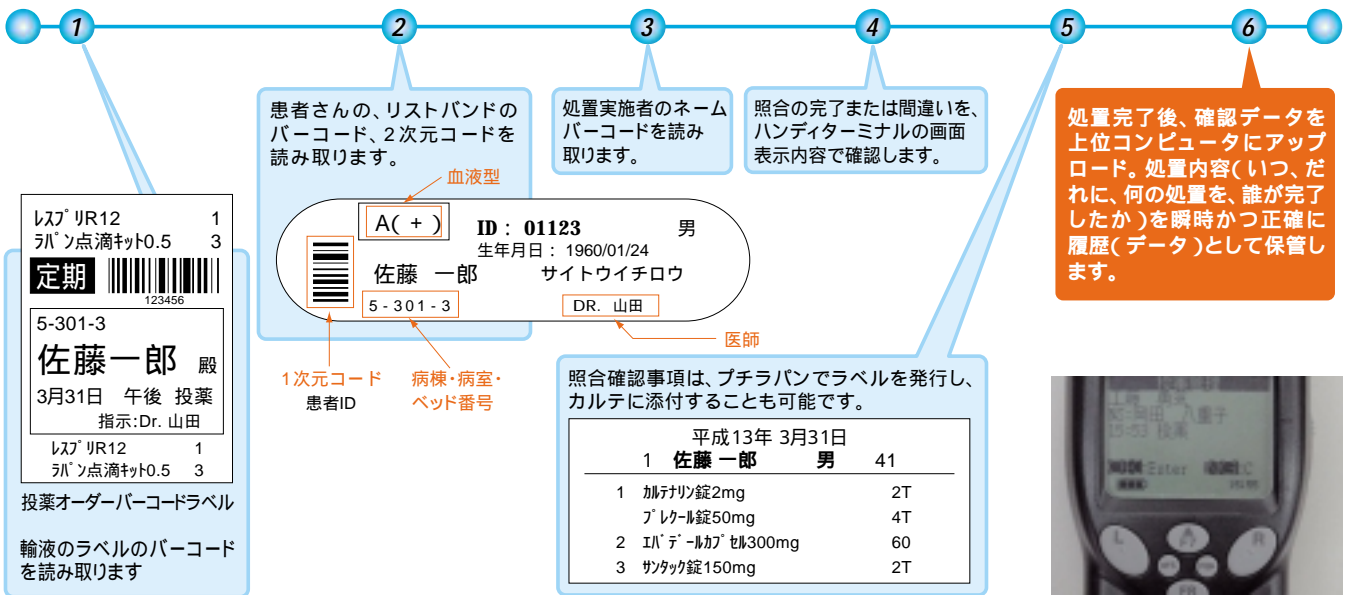
看護婦のID情報により、
処置のオーダーと実
施をさらにタイムリー
で確実なものにしま
す。

ID情報には、バーコードをはじめ、2次元コード、RFIDの活用も可能です。

RFID (Radio Frequency Identification) は、電波を介して非接触で情報を読み書きする技術です。

照合確認手順 (点滴・輸血の例)

患者さんのID情報と処置情報、また看護婦さんのID情報と処置情報を照合確認することにより、間違いのない確実な処置を可能にします。



手術室・検査室・売店での活用



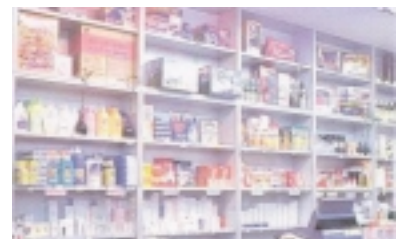
手術確認

リストバンドとカルテ・手術申し込み書などのバーコードを照合確認し、患者さんの取り違えを防止します。



検査確認

リストバンドとカルテ・検査申し込み書などのバーコードを照合確認し、患者さんの取り違えを防止します。



売店

患者さんの院内での購入物を記録し、データとして蓄積します。